

今日の発表内容

渡辺弥生

- (1) 現代的課題に対応した道徳教育を支える基盤の充実と推進
- (2) 発達段階や個人差を考慮した指導の工夫
- (3) ソーシャル・エモーショナル・ラーニング (SEL) の視点を踏まえた2コマ構成による指導の工夫
- (4) まとめ：道徳教育における実践化に向けて

さまざまな問題行動の未然防止のために「**道徳**」をパワフルに

多くの子どもたちが、さまざまな心理的・社会的困難に直面。2013年には、「いじめ問題」の深刻化を背景として「いじめ防止対策推進法」が制定。

いじめの取り組みについては、道徳の教科化を通じた質的な転換がはかられ、未然防止に資する教育として、その重要性が、大臣の発言や各種施策文書にも記載されている

しかしながら、重大ないじめ事案の発生、不登校児童生徒数、学校内における暴力、自死の発生件数も年々増加し、引き続き注視が求められる状況にある。こうした現状を踏まえ、教科としての道徳が、これらの課題の未然防止に資する取組として、より一層実効性を高めていくことが期待される（右グラフ参照）。

こうした課題は我が国に限らず国際的にも共有されており、その予防的な観点から、子どもの発達を支える教育の枠組みについての関心が高まっている。国際的には「ソーシャル・エモーショナル・ラーニング（SEL）」等として整理。SELは、子どもの発達を日常的に支える教育の在り方として学校教育における指導の充実を図る上で、理論的・実践的な示唆を与えるものと考えられる。

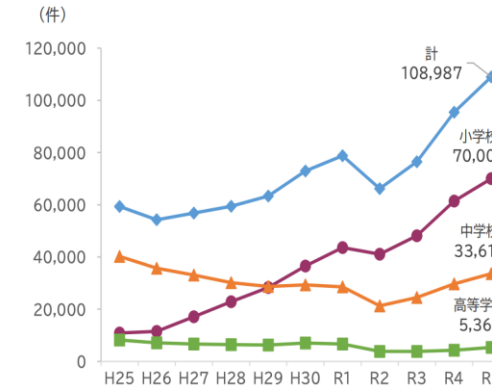
https://www.mext.go.jp/content/20200305-mxt_kyoiku02-100002180_1.pdf

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/28/11/_icsFiles/afieldfile/2016/11/18/1279623_1_1.pdf

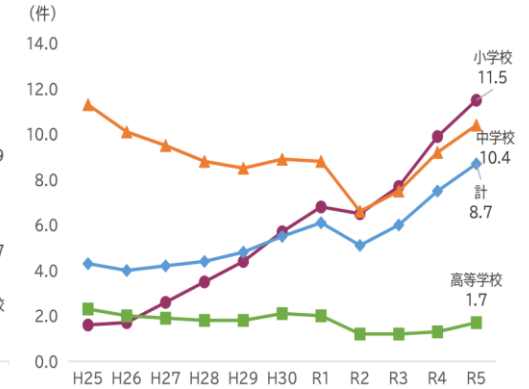
https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/d614d2ed-c695-4fd6-8dc2-2e1662f5ead6/69c6d60d/20251121-councils-ijime-kaigi-d614d2ed-06.pdf

学校での暴力

暴力行為発生件数の推移

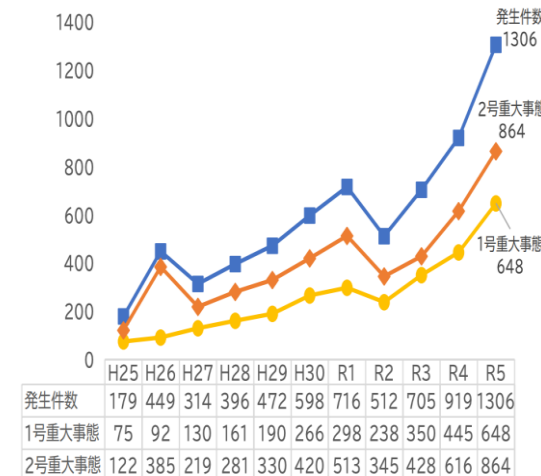


1,000人当たりの暴力行為発生件数



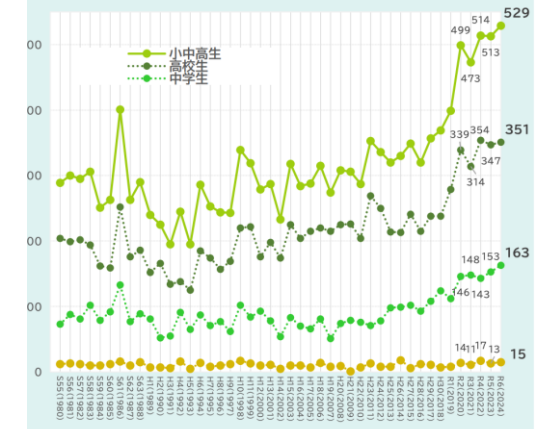
いじめの重大事態の推移

いじめ防止対策推進法第28条第1項に規定する「重大事態」の発生件数



小・中・高生の自殺者数の推移

- 小中高生の自殺者数は、増加傾向となっている。
- 令和6年(確定値)は、529人であり、過去最多となっている。



資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省自殺対策推進室作成

https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/9219343c-1a5f-40bd-b5b3-aa88e891dd71/5f623a63/20250916councils-kodomonojisatsutaisaku-kaigi-qnam0409-10.pdf

社会性や感情（情動、情緒）の発達を踏まえた教育的視点の位置付け

ソーシャル・エモーショナル・ラーニング（SEL）の考え方が普及

子どもと大人が、感情を理解し調整し、前向きな目標を設定し、他者への共感を示し、良好な関係を築き、責任ある意思決定を行うために必要な知識・スキル・態度を身につけ、実践するプロセスである。

日本でも生徒指導提要に記載されている(2022, p26) , 国立教育政策研究所(R2-5研究報告書、p349)でも調査されており、『道徳教育の理念と実践』（西野編,2020）放送大学大学院教材、ソーシャルエモーショナルラーニング（渡辺・小泉,2022）などいくつかの書籍にも記載。SELについては、心理教育プログラムの総称として捉えられることがあるが、本来は、子どもの健全な発達や学びを支える教育のあり方のこと。

https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_seika/r05/r060424-02_honbun.pdf



Social and Emotional Skills for Better Lives

FINDINGS FROM THE OECD SURVEY ON SOCIAL AND EMOTIONAL SKILLS 2023

群馬県での取り組み

【政策と実践の改善に関する奨励事項】

- ・ 教師のフィードバックについて、特に生徒の強みに関するフィードバックを増やす。
- ・ 学校教育における社会情動的学習を促進する構造とマインドセットを創出する。

Durlak, J.A., Weissberg, R.P., Dymnicki, A.B., Taylor, R.D. and Schellinger, K.B. (2011), The Impact of Enhancing Students' Social and Emotional Learning: A Meta-Analysis of School-Based Universal Interventions. Child Development, 82: 405-432. <https://doi.org/10.1111/j.1467-8624.2010.01564.x>
Heckman(2006) Skill Formation and the Economics of Investing in Disadvantaged Children Science , vol.321900-1902. などから

質の高いSEL実践
社会情動スキルの向上



態度の変化
(学校への所属感
・向社会的態度)



行動の変化
(問題行動減少
・協力行動増加)



学業成績向上
・ウェルビーイング向上



長期的成果
(進学・就労・市民性)

いじめ等の未然防止に資するエビデンスに基づく教育の展開

Psychology in the Schools, 60 (10)
p.3694-3706 Oct 2023

Received: 21 October 2022 | Revised: 21 April 2023 | Accepted: 4 May 2023
DOI: 10.1002/pits.22947

RESEARCH ARTICLE

WILEY

The impact of social and emotional learning on students' bullying behavior: Serial mediation of social and emotional competence and peer relationship

Yushi You | Siyi Zhang | Wanying Zhang | Yaqing Mao

Faculty of Education, Beijing Normal University, Beijing, China

Correspondence

Yaqing Mao, Faculty of Education, Beijing Normal University, Beijing 100875, China.
Email: maoyaqing@bnu.edu.cn

Funding information

National Natural Science Foundation of China

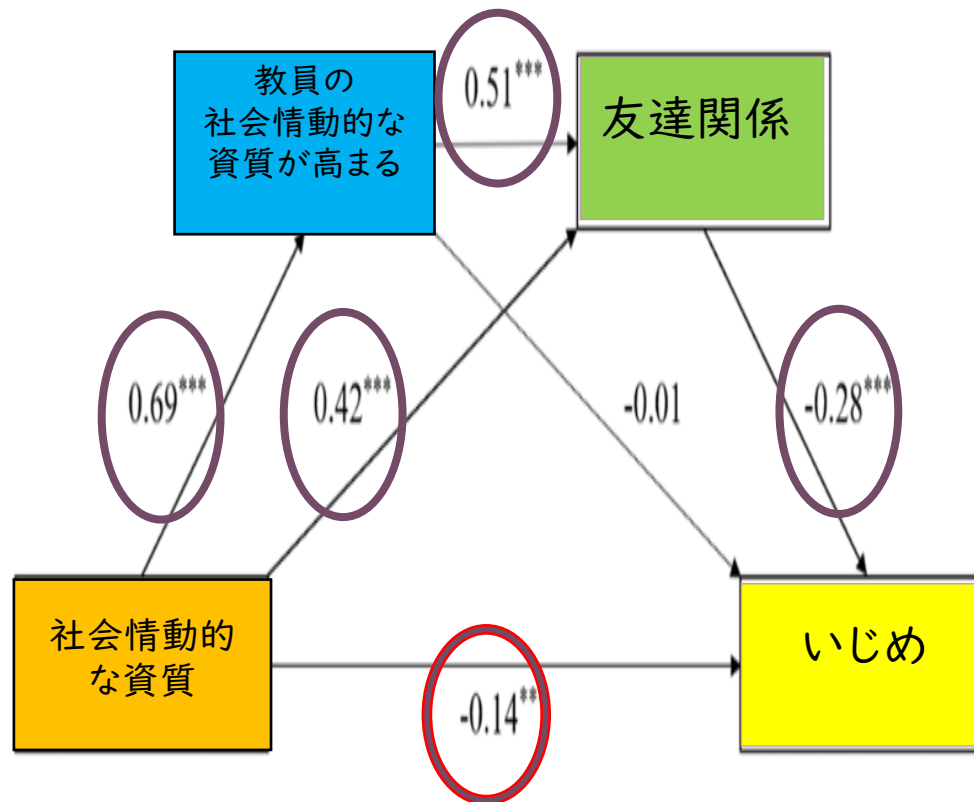
Abstract

Social and emotional learning (SEL) has gradually implemented in Chinese schools and is considered as an effective way to improve students' performance. This research aimed to study the influence of SEL on students' bullying behavior, and the role that social and emotional competence (SEC) and peer relationship play in SEL and students' bullying. The participants were 2049 students in primary and secondary schools in Beijing, China. SEM was used to examine the mediating role of SEC and peer relationship. The study found that SEL can significantly predict students' bullying behavior. In addition, SEC and peer relationship sequentially mediate the relationship between SEL and students' bullying behavior.

KEYWORDS

bullying behavior, peer relationship, social and emotional competence, social and emotional learning

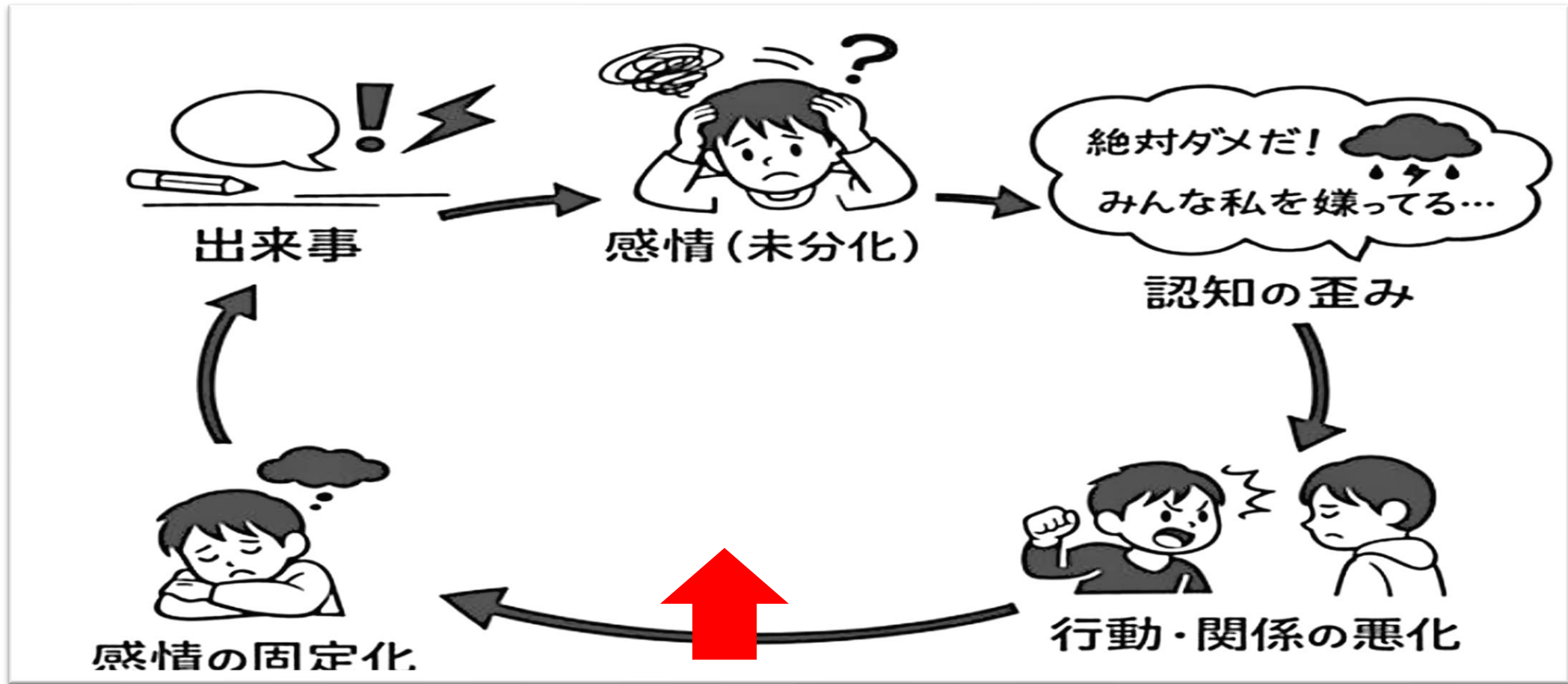
ソーシャルエモーショナルラーニングの効果を示した結果
→いじめ等の未然防止に有意な影響がみられる



対人関係や感情リテラシー

FIGURE 1 Serial mediation model. SEC, social and emotional competence; SEL, social and emotional learning.

子どもの内面の理解に基づく指導の明確化



SELで考えられる「こころ」のプロセス:

何か出来事に直面した時に、気持ちが混乱し、考え方も冷静でなく、適切な判断や行為を選び取れなかった時に、また自己嫌悪に陥るような悪循環を防いでいきたい。

(2) 発達段階や個人差を考慮した指導の工夫

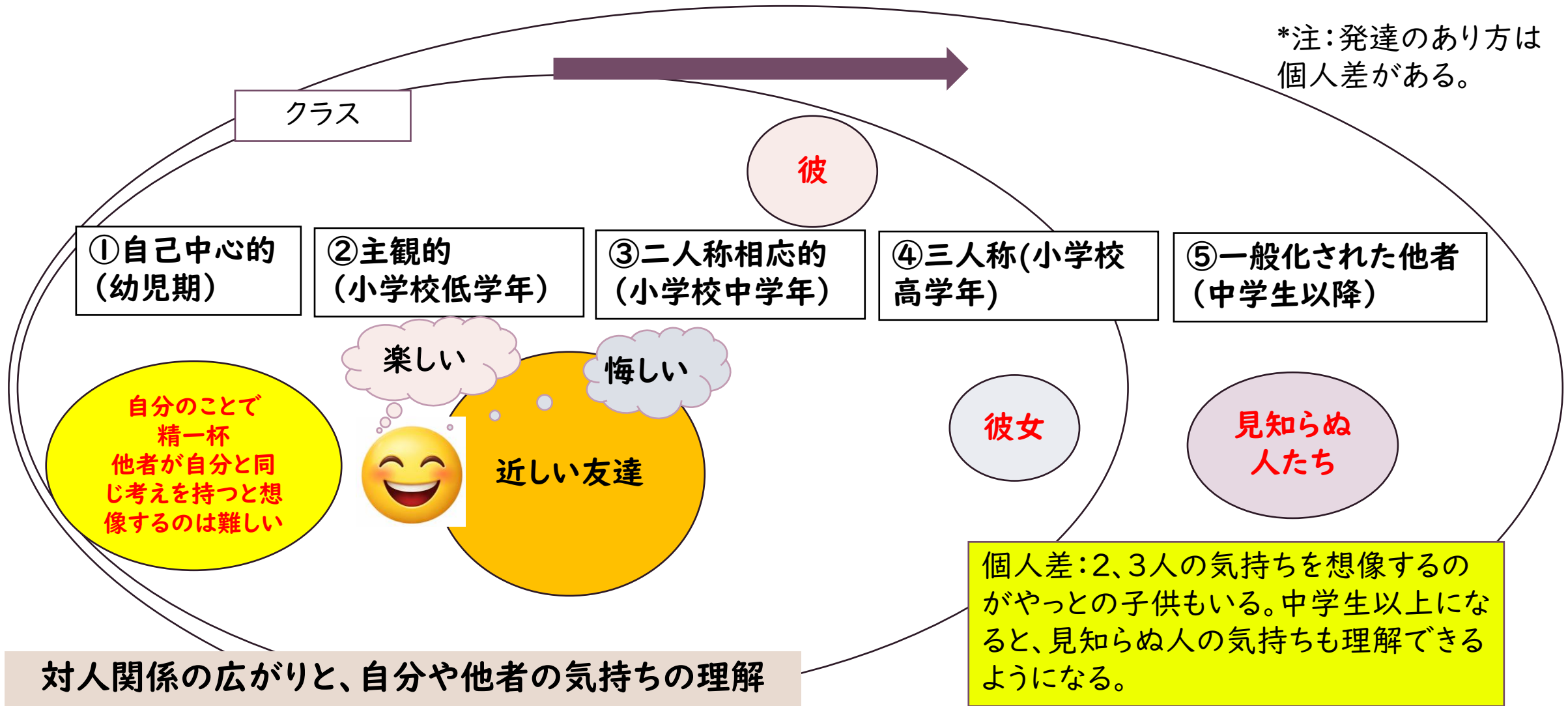
ここでは 例として

「思いやり」の発達

「考える力」の発達

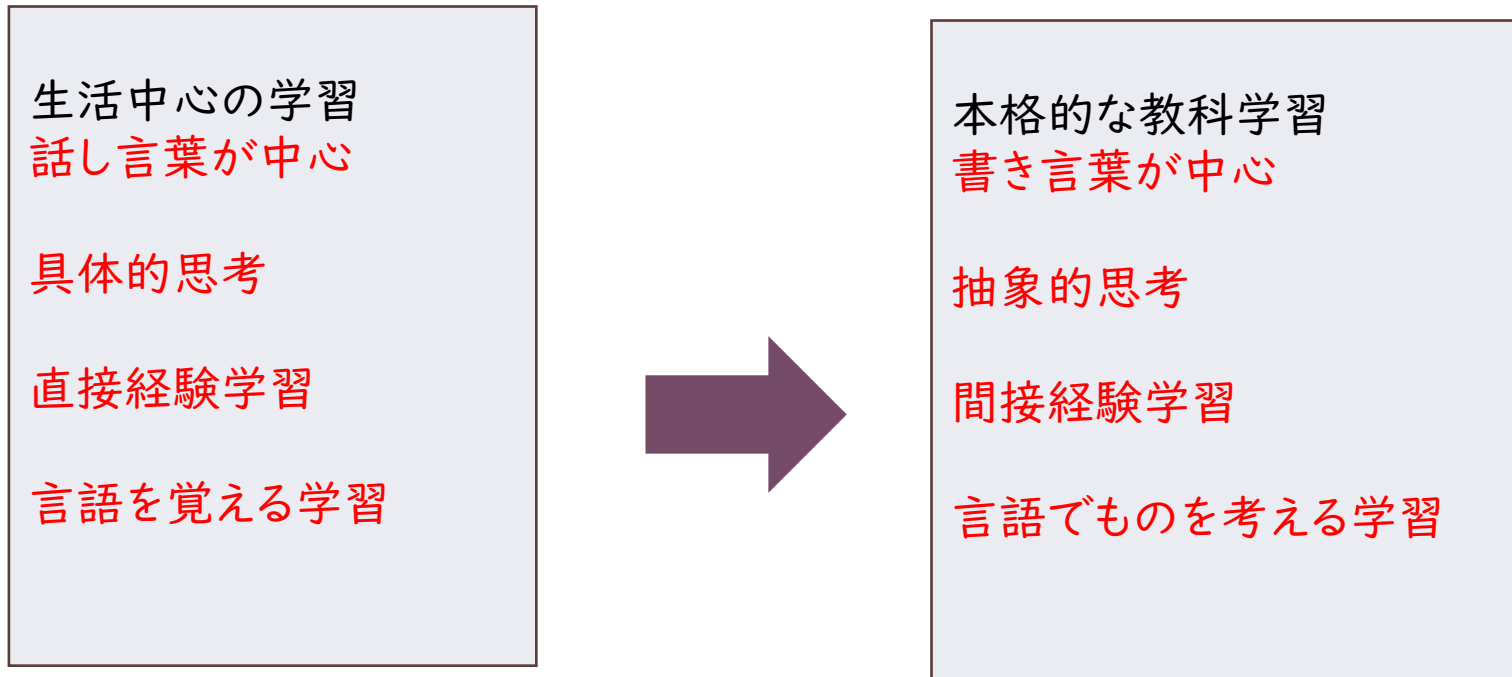
「思いやり」の発達を踏まえた指導

*注:発達のあり方は個人差がある。



Selmanの研究を紹介
渡辺(2011)

考える力などの認知的側面の発達を踏まえた指導



この発達は、教材の長さ、抽象度の高い話かどうか、会話で考えさせるか、書いたものにまとめさせるかに影響する。

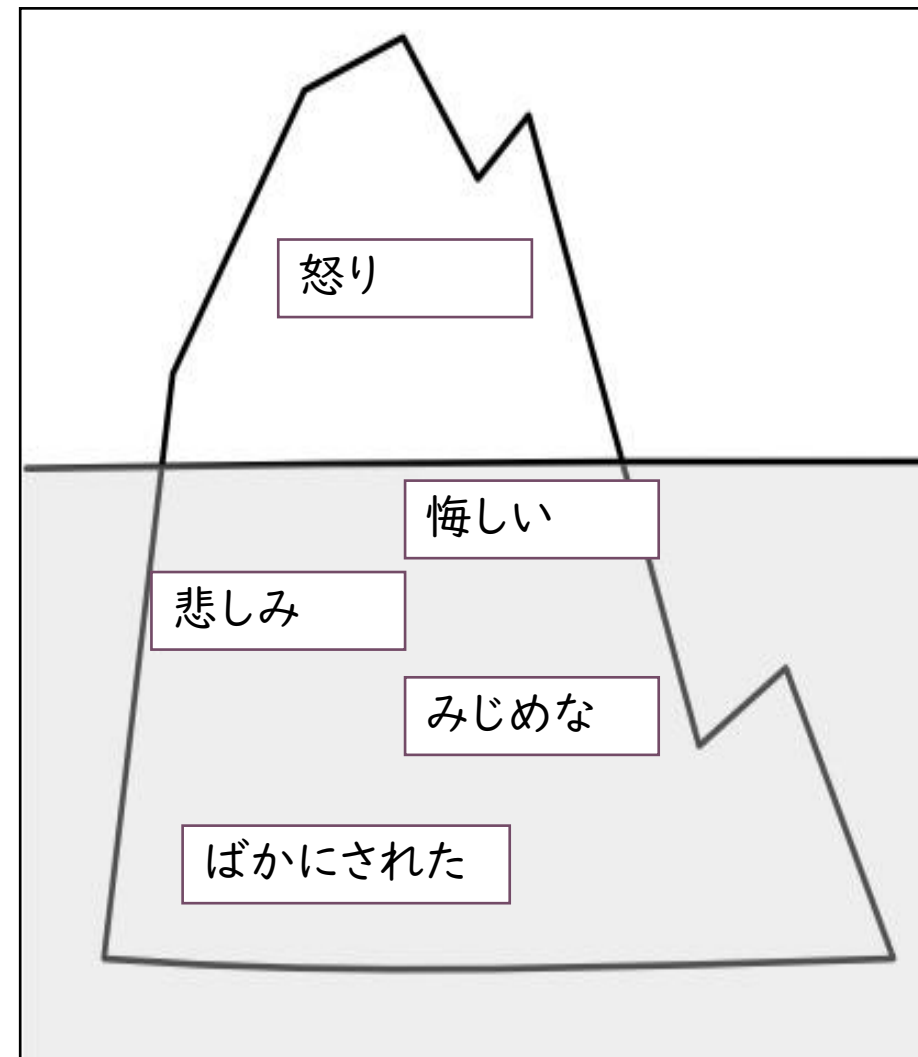
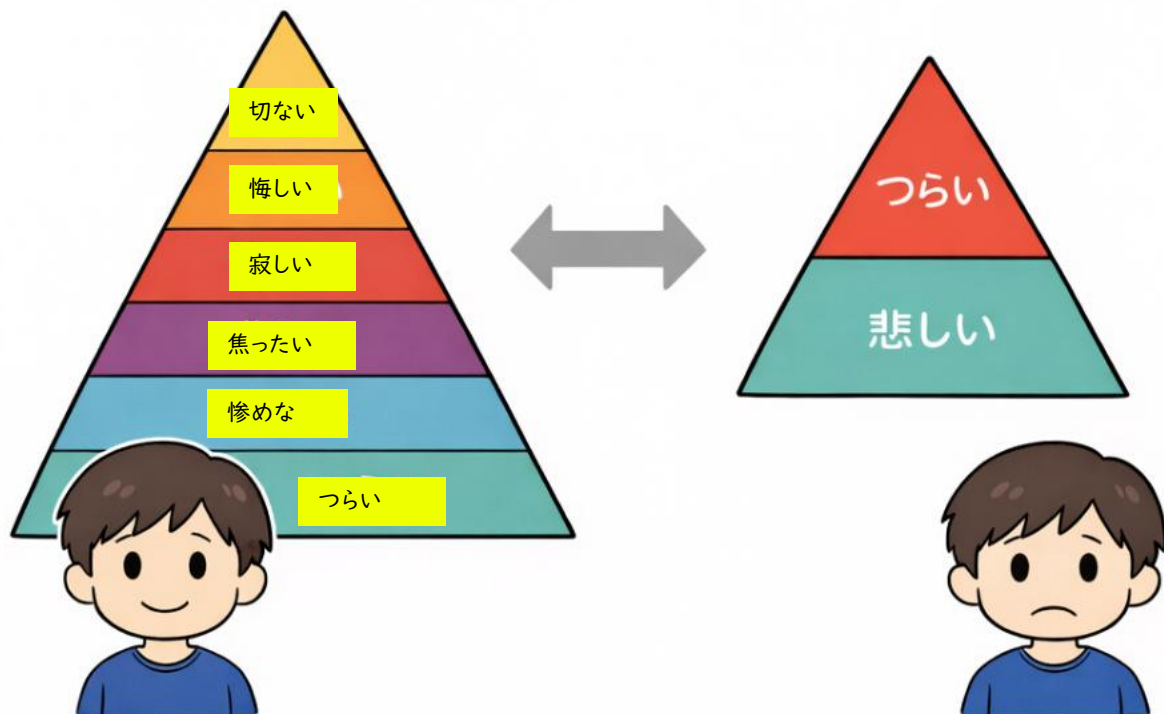
これらの発達段階を踏まえてSELの考え方を意識すると具体的な指導案が考えられ、発達に応じた効果的なものとなる。

***小学校中学年前後が境目（個人差あり）**

渡辺弥生(2011).子どもの「10歳の壁」とは何か？ 光文社新書の中で、p.48の脇中(2009)を参考に加筆

気持ちや考えを可視化する教材： 感情語彙を豊かにするワークの紹介。入り混じった気持ちの理解

子ども達は、自己理解に必要な自分の感情の認識が未熟なため、自分や他人の気持ちを「わからない」「モヤモヤする」「やばい」と言った表現にとどまる傾向にある。自分の内面の感情を、うまく言語化したり、表情や声の調子、仕草で表すことが難しいゆえと指摘されている(渡辺、2026)。よりよく生きるためには、自分の感情を認識することが必要であり、そのためにはある程度の感情語彙を持つことや感情は入り混じっているなどの知識が必要である。



先に示した発達の理解や個人差を捉え、子どもの実態を適切に把握することにより、内面の発達を支える観点から、実態に応じた具体的な指導内容や支援の在り方を検討することが可能となる。

→ここまでの内容を踏まえたとき、例えば「**特別の教科 道徳**」においては、どのような指導方法が考えられるか。

価値の葛藤や複数の価値の関係から、「何が大切か」「**自己の生き方**」について考えを深める指導イメージ

小学校高学年 価値と価値の葛藤(【正直、誠実】×【親切、思いやり】)


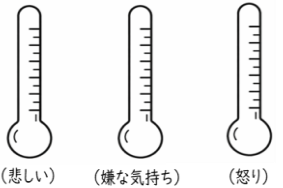
主題名:いじめをなくすためには 教材名:本当のことを言ってもいいの?

【ねらい】 1時間目:教材の登場人物の生き方と実生活を重ねながら、本当のことを言った時のお互いの気持ちを感じ、考えることを通して、道徳的心情を育てる。
2時間目:1時間目の学習をもとにしながら、相手のことを考え優しく接しようとする行動のよさについて考えることを通して道徳的実践意欲を育てる。

■教材の概要(アメリカの児童文学作家パトリア・C・マキサク(Patricia C. McKissack)による絵本『The Honest-to-Goodness Truth』(1999)の日本語版から作成)
さくらは正直が正しいと強く考える小学生。思ったことをそのまま言うことが大切だと思っています。ある日、友達のゆいが新しい髪型で登校してきます。クラスのみんなは「かわいいね」と言います。でもさくらは…「前のほうが似合ってたと思う!」と強く言いました。ゆいは少し笑ったあと、黙ってしまいました。その後も、音読が苦手な子に「ゆっくりだね」、絵が苦手な子に「形がなんか変だよ」など、思ったことを次々とやってしまい、クラスのみんなと少しずつ気まづくなります。…自分も正直に言われて落ち込むことになり…

1時間目

2時間目

導入(15分)	展開(20分)	終末(10分)	導入(5分)	展開(20分)	終末(10分)
<p>【指導上のポイント】 自我関与を喚起、経験を引き出す</p> <p>【発問】 先生はみんなと同じ小学生の時、「嘘はつかないで正直が大切だよ」って教わっていたのに、友達に思ったことを言ったら、仲が悪くなったことがあるんだけど、みんなはそんなことがあるかな?</p>	<p>①教材を読んで考える。 ②登場人物の言動を支える気持ちや内面を考え、話し合う。 ※ワークシートや端末に感じたこと、考えたことを整理できるようにしておく。 【発問】 さくらとゆいがお互いにどんな気持ちでいるか話し合ってみましょう。 ・自分の考えを整理 ・ペアで実際に言葉を掛け合う →役割を交代することによって、多面的・多角的に考えられるようにする。</p>  <p>※ワークシート等のイメージ</p> <p>③クラスのみんなと共有する。 自分の考えや全体での考えの交流を通して判断をめぐる葛藤について考える。</p>	<p>【振り返り】 ★正直、誠実を大切にするのか、親切、思いやりを大切にすることについて、自分なりに感じたこと、考えたことをノートに書いてみましょう。</p> <p>判断を巡る葛藤について、自分の考えに向き合いながらまとめられるようにする。</p> <p>【更に深める】 (次の時間までに) 葛藤が生じる異なる場面をそれぞれ考えさせる</p>	<p>1時間目に学習した登場人物の生き方、判断をめぐる葛藤についてワークシートや端末をもとに振り返る。</p>	<p>●気持ちや考えを可視化する</p> <p>【深める教材の例①】 もし、自分がよいと思ったことを、相手から変だとか、前がよかったと言われると、どんな気持ちになるかな? それぞれの気持ちがどれくらい強いかわかりづらいため塗りつぶしてみよう。</p> <div style="text-align: center;">  <p>(悲しい) (嫌な気持ち) (怒り)</p> </div> <p>気持ちを温度計など可視化できる工夫をする。</p> <p>相手を思って「正直」に伝えることがよいと期待してたのに、自分に置き換えるとネガティブな感情になることについて考える。相手を傷つけないような道徳的行為の背景まで考えさせる。 →自我関与による深まり</p> <p>●教材とは異なる場面の「深める教材」をもとに考える。</p> <p>【深める教材の例②】 ・友達が「私の歌下手かな?」と言ってきた時、どうしますか? ・相手が同級生ではなく、年下の子ではどうですか? ・他の葛藤が起きそうな場面ではどうですか? 等々</p> <p>正直に伝えることと、思いやりを持って伝えることの関係について、ワークシートや端末を活用して学級内で共有し、体験的に気づかせる。多面的・多角的に道徳的行為を考えさせながら、文脈への主体的な関与を促し、価値に気づき、その理解を深めていく。</p>	<p>【振り返り】 ★2時間を通して、登場人物の色々な気持ちや、伝え方を考えたりしてきたことを振り返る。</p> <p>どのようなことが大切だと思ったか、行動の背景にある感情や考えなどについてまとめてみよう。</p> <p>その上で、どのような生き方、価値が重要なのかに気づかせる。</p> <p>1時間目、2時間目の学習をもとに自己の生き方を考える</p>
<p>*登場人物の人数は、低学年は2名くらい、高学年は第三者を増やしても良い。 *価値については、低学年では抽象的な概念の理解が難しい子どももいるので、一つの価値を深く考えさせても良い。やさしいと思って言った言葉が、予想外に友達を傷つけたなど、思いやりについて2コマ考えさせることもできる。</p>					

まとめ

- いじめや暴力行為の未然防止のために、道徳は一層の役割を果たす必要がある。
- 感情の理解や調整は、問題行動の未然防止に資するものとして国際的にも注目されている。
- 道徳科の指導の充実にあたり、感情の理解や調整の要素をうまく取り入れることで、「道徳的心情」「道徳的実践意欲」とも関連し、よりよく道徳科の目標に迫ることができる可能性がある。
- とりわけ、複数時間の取扱いや体験的な活動等の工夫と組み合わせることで、「道徳的実践」へのつながりを意識しながら、「思いやり」等の道徳的価値によりよく迫ることができるのではないか。
- その際、「思いやり」「考える力」の発達段階を踏まえて授業や教材が設計されることが重要であり、こうした視点も踏まえた「深める教材」の開発にも期待できるのではないか。